

牧 峠

(東頸・牧村)

■環境：山地、森林
 ■対象：一般
 ■期間：6月～10月上旬

新潟県有数の豪雪地で、長野県に接する峠。標高1000mからの眺望はすばらしく、県内で最も大規模なワシ・タカ類の渡りが見られる。春には付近のブナ林の鳥たち、秋には紅葉など見所もいっぱい。

<ブナ林の鳥たち>

牧峠は標高1000m、長野県境にある峠で、道はやや分かりにくく、狭い村道を登っていかなければならない。県内有数の豪雪地帯のため雪解けは遅く、車で入れるようになるのは例年6月を迎えてからとなる。大きなブナの木は幾分か以前と比べ数は減ってきたが、それでもたくさんの種類の鳥たちがこの林をすみかとしている。

シジュウカラ、ヒガラ、コガラ、ヤマガラなどのカラ類をはじめブナ林の代表種キビタキやゴジュウカラ、キツツキ類のアカゲラ、アオゲラ、オオアカゲラの生息が確認されている。さらに運がよければアカシヨウビン、ブッポウソウなど色彩やかな鳥たちに出会うこともある。

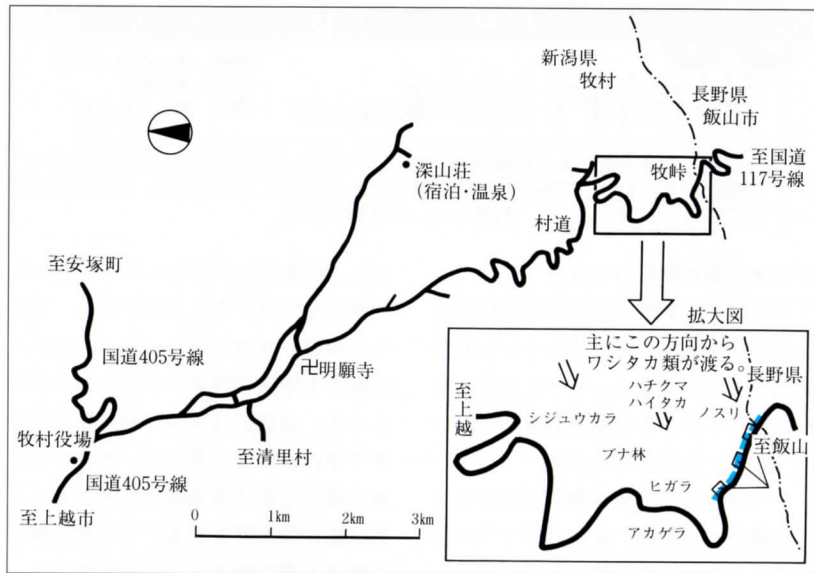
<秋空を渡るワシ・タカ類>

秋にはワシ・タカ

類の渡りを見る人々が足しげく通うようになる。9月中旬から10月上旬にかけてはサシバ、ハチクマが、それ以降11月上旬ころまでは主にノスリの渡る姿が見られる。今までの観察では長野県に近い方をハチクマやノスリが、新潟県側をサシバが渡る傾向が強いようである。特にハチクマとハイタカは観察者の頭上を輪を描きながら上昇していくものがあり、そのはん紋をじっくりと見る機会は他の場所ではなかなか得られない貴重なものである。イヌワシもしばしばその雄姿を見せ、牧峠で



牧峠林道付近



観察されるワシ・タカ類は16種にのぼる。またエゾヒタキなどのヒタキ類、ヒヨドリ、ツバメの渡りも目にする事ができ、県内有数の渡りの観察地といえる。

ただし渡りは天候に大きく左右されることを留意されたい。渡りがほとんど見られない日もしばしばある。観察に適した日は晴れて視界がよく暖かな日であるが、それでも確実とは言えない。渡りを見るにはイスとお茶持参でのんびりと待つ、そんな心構えが必要となる。

注意事項：村道（旧上牧林道）は道幅が狭く、地元の方々も山菜採りやキノコ採りで多数入山するので、車で通行

の際はすれ違いに十分注意が必要。また地滑り多発地帯でもあり、雪解け直後や大雨の時は通行を控えること。宇津俣にある「深山荘」(☎0255-33-6785) 宿泊入浴可。

(末崎 朗)

メモ

交通 JR高田駅前発バス上牧行き(所要50分)「上牧」下車、徒歩約2時間半。
 ㊦ 村道わきの余地に駐車可、現地にトイレなし。

探鳥会 日本野鳥の会上越地区探鳥会を9月下旬実施。